

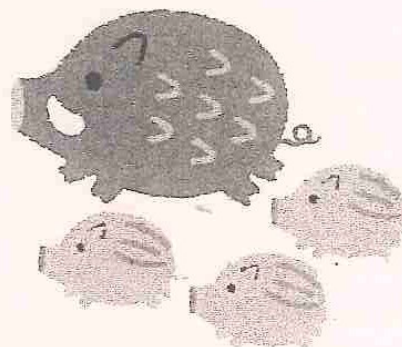


通信

電話048-480-4150

2019年1月31日発行

2019 亥年



96回目のお正月を迎えられたグループホームえんの入居者さんお二人です。そう、今年^いは年女です。お二人とも、家族を支え、お仕事を持って大正・昭和・平成を生き抜いてこられました。長い年月の積み重ねが、この笑顔に表れています。

年女のお二人も、他のみなさんも、なごやかであたたかい時間を、グループホームえんで過ごしていただけますように。と、^い亥のった年の初めでした。

(グループホームえん/井上暁子)



新しい年を迎えて この30年を振り返る



2019年最初のえん通信です。皆さんはどんな新年を迎えられたでしょうか。私はお正月に、映画『こんな夜更けにバナナかよ』を観ました。映画は筋ジストロフィー患者鹿野靖明さんと介助ボランティアの物語で、1990年前後に同じく二人の全身性障がい者の介助ボランティアグループから始まった暮らしネット・えんの前身と重なり、懐かしい気持になりました。

今から30年前、新座市のホームヘルパー（公務員）は5名だったと記憶しています。そんな時代に重度の障がいがある人が在宅で暮らすには、家族が献身的に介助するか（映画の主人公は、母に自分の人生を生きてほしいと家を出ます）、たくさんのボランティアの手を借りるか、二つの選択肢しかありませんでした。そんな時代に、ちょっとずつ手伝うことでこの家で暮らしていけるならと、6年間総勢20名を超えるメンバーが、夜間、深夜、日曜祝日、年末年始もせっせと通いました。けれどもボランティアでは限界があります。そこで新座市の委託を受け『ケアサポートステーション・MOMO』になり堀ノ内病院在宅福祉部門として再出発することにしました。1996年のことでした。スタート直後から、往診の医師と訪問看護の看護師に教わりながら遷延性意識障害や寝たきりの高齢利用者のケアに出向き、高齢者介護のいろはを学びました。貴重な財産です。その後2003年にNPO暮らしネット・えんを設立、現在にいたります。

全身性障がい者の介助にもこの間に公的な費用が出るようになっていきます。同時多発的に全国で起きた活動が支援制度の拡充を促がしたのです。彼らが掲げた『自己決定の尊重、生活の継続』は介護保険の理念にも反映されています。

活動を始めた1989年は、昭和が平成に変わり、消費税導入があり、天安門事件がおき、ベルリンの壁が落ち、激動の年でした。日本の高齢化への備え「高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略（ゴールドプラン）」もこの年に策定されました。それから30年、暮らしネット・えんは超高齢化する地域に背中を押されて、今は職員109名、利用者総数約650名の団体に成長しました。しかし当時の経済大国日本は、人口減少の上に格差が広がり巨額の財政赤字を抱え先行きが見えません。そんな中で超高齢社会は続きます。掲げてきた『高齢になっても、障がいがあっても、地域で共に』の達成は、これからが本番です。前を向いてできることを見つけながら歩いていきましょう。あれから30年の早春です。

代表理事 小島美里

第18回 暮らしネット・えん

みんなのコンサート

～新座にデキシーランドジャズがやってくる～

演奏：春川ひろしとデキシーランダース

2018年10月28日(日)

14:00 開演 新座市立中央公民館

入場者数211名



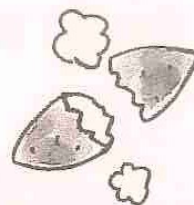
— 参加者の声 —

28日のジャズコンサートはとても楽しく素晴らしいひとときでした。ずっと昔聞いたことがあるような曲も、現在もCMに使われている曲も、初めて聞く曲も、生で聞く演奏は迫力があり魂が揺さぶられるような思いでした。コンサート開催に至るまで大変御苦労があったと思います。本当にありがとうございました。いつもながら会場までの車の送迎も大変ありがたく、感謝します。

(ケアサポートえん利用者／高久捷子)

2018年12月2日(日)

焼き芋タイムに参加して



今回、義母と3歳の娘と初めて参加させていただきました。少し緊張しながら階段を上ると、広がる景色は緑豊かで、やさしい職員さんの笑顔が溢れていて、一気に緊張感もほぐれました。

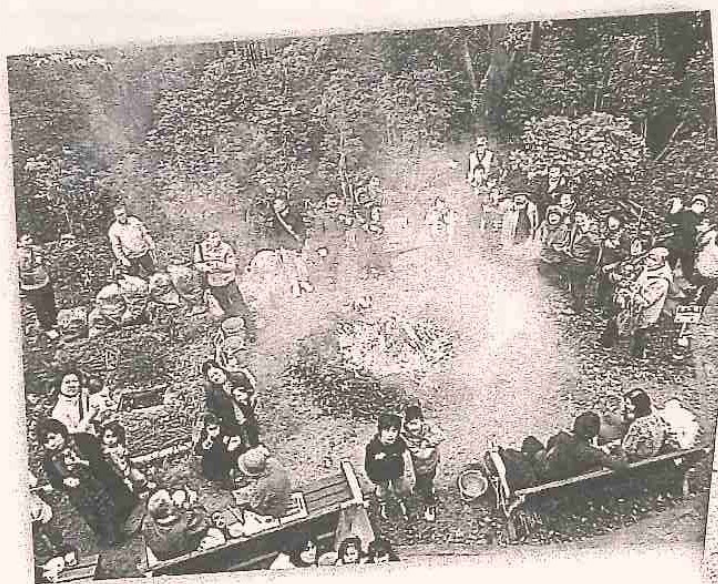
久しぶりに嗅いだ、たき火の匂いに、幼少期に祖父母の家に行った記憶がよみがえりました。祖父母の家も、竹林に囲まれ、餅つきをしたり、今回のようにたき火で焼き芋を焼いたり、自然の中での原風景を思い出し、私にとって心温まる一日になりました。

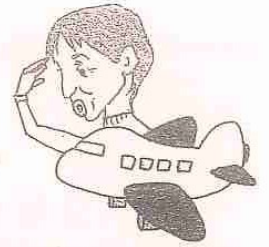
最近では、たき火を見る機会もなく、娘も初めて見る大きなたき火に興味深々。また、粋な計らいにマシュマロまで棒にさして焼かせて頂けたり、焼き芋はホクホク、とん汁(肉は入ってなかったような)も美味しくあっという間に食べてしまいました。お腹いっぱいになった娘は、竹林で落ち葉ふみや、かくれんぼを心行くまで楽しむことが出来て、カブトムシの幼虫まで頂き、虫好きの娘は大喜びしておりました。

親子3代で心温まる素敵な体験をさせて頂けたことを感謝しております。大人はたき火の炎に癒され、娘は自然を大いに楽しむことのできた焼き芋タイムに、次回も是非参加させていただきたいです。また、このような機会を無くさないように続けて頂けると嬉しいです。

ご準備下さった皆様ありがとうございました。

(職員家族/R)





昨年11月末から1週間、アメリカ合衆国西海岸のオレゴン州ポートランドに愛敬福祉支援財団主催の高齢者福祉研修で訪れました。ポートランドは合衆国の中で住みたい都市トップだとか。路面電車の路線が交差し、自転車が行きかう暮らしやすそうな都市でした。でっかいステーキに山盛りのポテトを想像していた食事も地産地消をすすめているそうでとても美味しく、アメリカといってもイロイロだと知りました。滞在中にハローウィンの日が来て、訪問先の高齢者施設で責任者が人魚(太めの)の仮装で現れたり、新鮮な1週間を過ごしてきました。2回に分けて報告します。

～低所得層へのケアをもっと知りたい～

見学した入居施設は、最も低額の部屋で入居費用は月額2,350\$、ケアが必要な高齢者対象のアシステッドリビングでは、そこにケアのコストが600\$から2000\$、さらに必要があれば追加料金が必要。想定外に長生きし貯えが尽きて破産、退去になるケースがあると聞いていましたが、低所得層向けナーシングホームに移動できるようです。まさに老後の沙汰も金次第ですが、低所得者対応プログラムで、デイケアを見学することができました。こうしたプログラムには、元ホームレスの参加者もいると聞いて少しホッとしました。自助・自己責任の国で低所得層は捨て置かれていると思い込んでいましたから。今回は見られませんでした。フォスター・ホームと呼ばれる日本のグループホームのようなリーズナブルなものもあるとか。社会保障がやせ細って行く中で、「自己責任先進国」米国の低所得者支援をもっと学びたいと思いました。

～認知症薬と向精神薬～

オレゴン州は日本で使用されている3種類の薬剤を認知症初期に効果があると認めています。認知症薬は、服薬開始後4週間・8週間に診察し、効果がなければ服薬中止となります。日本では、ずっと継続して服用するのが当たり前になっていますから、この姿勢は学んで欲しいものです(ちなみに、フランスでは効果が薄いと保健薬から外されました)。

一方、暴言・暴力的な行動に用いられる向精神薬はなるべく使わないようにと勧告しています。講師は「症状が激しい在宅患者に服用を認めないと、家族やケアギバー(介護職員)を追い詰めることになる」と話され、いずこも同じ悩みを抱えていることを知りました。おそらく乱用に近いケースがあつての方針なのかもしれませんが、難しい問題です。(続く)

小島美里



お試し開店中 ～若年性認知症カフェ～



昨年12月12日の午後、えんの森のリビングで『若年性認知症カフェ』が開店しました。10月10日のお試し第一回目に続いて第二回目でした。おなじみになった『認知症カフェ えんの森』は、地域の方々と認知症のある方々が「知り合う」ことを目的にもうじき5年、おかげさまで毎回繁盛しています。こちらのカフェは、高齢の方とは違い体力もエネルギーもあり、少しのサポートがあれば能力を存分に発揮できる方々。その力を生かせる場があればと日時を変えてお試し開店しました。



デイホームえんや多機能ホームまどかの利用者で、若くして認知症を発症された方々がカフェの『ウェイター、ウェイトレスさん』。クリスマスも間近ということで、赤いサンタ帽をかぶって注文を聞いたり飲み物を運んだり大忙しです。『お客さん』は暮らしネット・えんのボランティアさんとスタッフがほとんどです。

「何たのまれたっけ…」「ウーン、どこかな」忘れてしまうことがあっても、「コーヒーとクッキーね」「ここよー」絶妙のタイミングでフォローが入ります。日頃はサービスする側のボランティアさん、「座っているだけだとお尻がムズムズする」と手伝いたそうでした。

家業の食堂を切り盛りしていたAさんの動きは素早くむだなく、フロアーを移動していきます。ギターの得意なBさんの弾き語りやBGM。ギターの音色にひかれて飛び入りで歌う『お客さん』の姿もありました。

そのうちに『ウェイター、ウェイトレスさん』の姿が見えないと見回すと『お客さん』の席に座って思い思いにくつろいでいました。そう、休憩も必要ですよ。二回目のカフェも和やかなうちに閉店しました。閉店後は今日のカフェを振り返ります。「なんだかわからなかったけど楽しかった」という感想が聞かれ、一回目の反省で用意したメモ帳はほぼ使われず「やっぱりいらないかな」と言うことになりました。

お試しを重ね地域に広がっていくことを願って、2月には第三回目の『若年性認知症カフェ』を開店します。少しずつ経験を積んで、お試しではなく、本格的に？開店しようと話し合っています。

まだ名前もないカフェですが、どうぞよろしくお願いします。

(多機能ホームまどか／海老沢美知代)

昼食のお弁当を配達しています！！

利用者さんの声と配達者の声を紹介します。



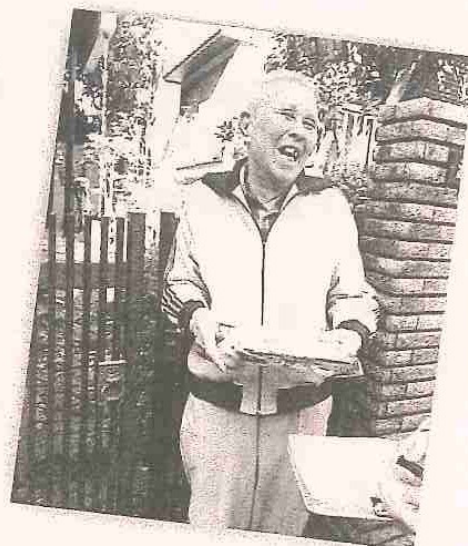
《利用者さんの声》

- 主菜は、お肉とお魚が交互に出て飽きがこない様に工夫されている。
- 季節感を感じられ、家庭の食事みたいでうれしい。
- 冷凍食品ではないのがわかる。
- 配達の人との世間話が楽しみ。
- ケアマネージャーさんと連携が取れているので安心する。
- 葉物野菜が甘く味付けされているのが苦手。(胡麻和えなど)
- このお弁当で栄養とっているよ。

～いろいろなお声をいただいています～



配達風景



《配達者の声》

- 配達時に顔色や表情や会話でその日の体調の変化に気づくようにしています。
- 不安や心配事を解決はできませんが、聞くだけで気持ちが少し楽になればと思います。
- 体調が悪かった方がお弁当を食べて、少しでも体調が良くなった感じが目に見えらうれしいです。
- 連絡なしに所在が分からないと心配になります。事務所と連携して所在確認ができると安心します。
- 利用者さんから「ありがとう」や「おいしかった！」と言っただくことが多く、やりがいを感じながら配達しています。ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

～ 今後の予定 ～

まどかコンサート

中国楽器 二胡 第2幕

と き：2019年3月17日（日）

じかん：13:45 開場 14:00 開演

ところ：多機能ホームまどか

出 演：酒井 和嘉子 中国楽器二胡奏者

参加費：300円（先着50名様まで）

申 込：多機能ホームまどか TEL 042-476-1501



だれでも食堂^{しょくどう}

～月ごいちど、日曜日のおひるごはんを
みんなで作って、みんなで食べよう～

毎月最終日曜日 11:00～15:00（食事は12:00から）

グループリビングえんの森にて行います。

材料費：こども無料・おとな300円



～職員大募集！！～

暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか？

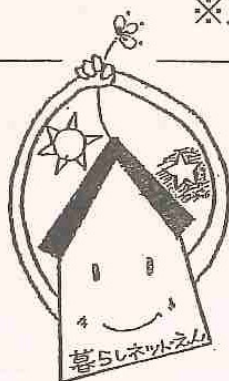
ケアマネジャー・ヘルパー（訪問介護職員）・介護職員募集しています。

資格がない方も資格取得のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

地域で暮らし続けていくために 2018年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話：048-480-4150 FAX：048-201-1311

Eメール：npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ：<http://npoenn.com/>